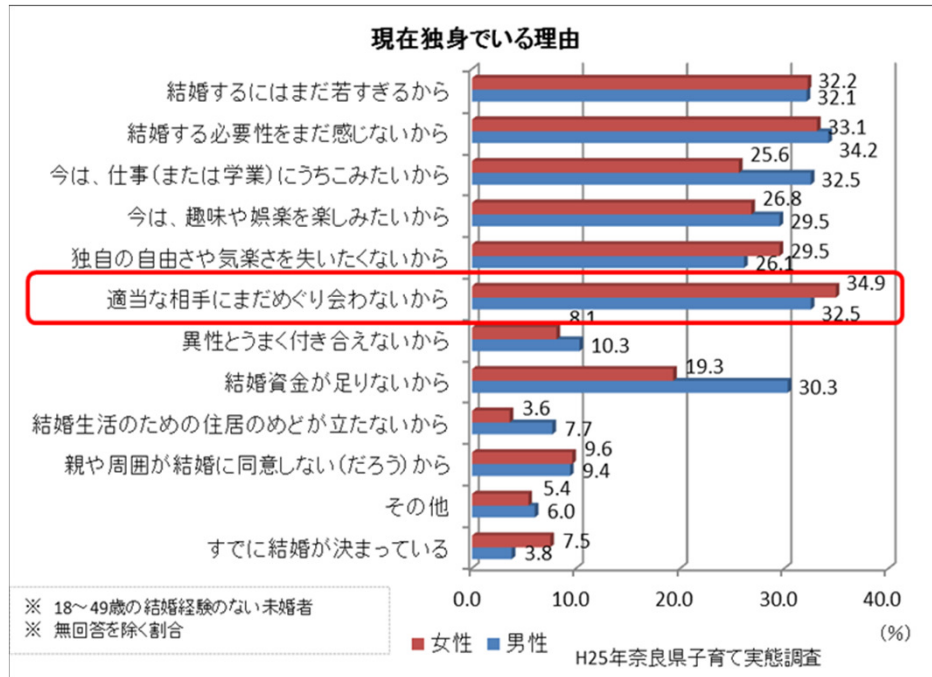


3 結婚に関する意識や男性による子育てに関する状況

(1) 若者の結婚に関する意識(奈良県)

- 「**現在独身でいる理由**」で最も高いのは、**女性**は「**適当な相手にまだめぐり合わないから**」(34.2%)、**男性**は「**結婚するにはまだ早すぎるから**」(34.2%)
- 「**交際相手と知り合うきっかけの希望**」は、男女とも、「**職場や仕事の関係で**」がそれぞれ53.8%と52.6%と最も高く、次いで、「**友人や兄弟姉妹を通じて**」が男性29.6%、女性38.7%



地域や職場での「**出会いの場**」づくりが必要

(3) 夫婦の生活環境が少子化に与える影響(内閣府経済社会総合研究所の少子化研究より)

1 夫婦の出生力や出生意欲の低下に関する要因分析 ~「少子化と夫婦の生活環境に関する意識調査」の結果分析~

- (1) **夫の育児時間が少ないことは、男女とも現実的に第3子を出産しようとする意欲を低下**させる。
- (2) 育児分担以上に強い効果がみられたのが、配偶者からの情緒的サポート。
- (3) 夫婦の伴侶性をみると、夫婦共通に行う行動が多いことや夫婦共通の趣味があることは、おおむね追加出産意欲を高める。

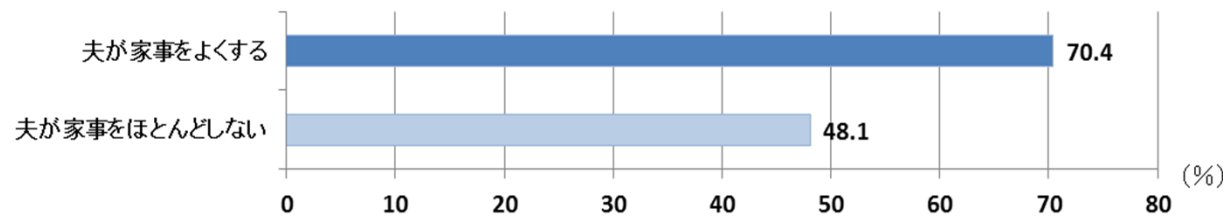
2 夫婦の出生意欲に影響を与える就業や生活環境の分析 ~子育て女性の「イライラ」が出生意欲に与える影響、夫の帰宅時間が家庭生活に与える影響~

- (1) 未就学児の子育てをする女性は、子どもがいない女性に比べて「イライラしている」割合が高い。また、**子育て中の女性の「イライラ」は、子育ての楽しさを減じて、追加的な出生意欲にマイナスに影響する可能性が高い。**
- (2) 子育てする女性の「イライラ」を高める原因の一つに「**夫の気が張りつめている**」がある。「**夫の気が張りつめている**」と妻を感じる割合は、**夫の帰宅時間が22時を超えると急激に高まる。**

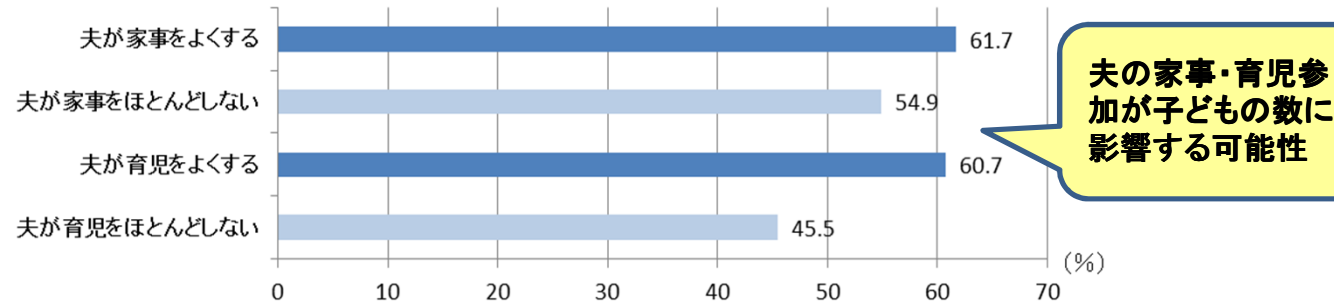
(2) 夫の家事・育児の関わりと今後の予定子ども数との関係(全国)

- 「**夫の家事・育児の遂行頻度**」と「**今後妻が子どもを持つ予定**」との関連を調べた全国調査結果をみると、**夫が家事や育児をよくする方が、今後、妻が子どもを持つとしようとする割合が高い。**

夫の家事の遂行と今後妻が子どもを持つ予定(子どもがいない妻)



夫の家事・育児の遂行と今後妻が子どもを持つ予定(子どもを1人持つ妻)



※40歳未満の妻について集計 第5回(H25)全国家庭動向調査(国立社会保障・人口問題研究所)

(4) パートナー(夫)との話し合いの度合いと子育て不安との関係(奈良県)

- パートナー(夫)との関係のうち「よく話し合っている」状況と妻の子育ての心理的・精神的な不安・負担感との関係を見ると、**子育てについてパートナー(夫)とよく話し合っている妻のほうが、そうでない妻に比べ、子育ての心理的・精神的な不安・負担を感じている割合は低い。**

